

平成23年度 年報報告

平成23年の何と言っても大きな出来事は3月11日に行った東日本大震災でした。その後の大津波による甚大な被害と今なお解決しない福島原子力発電所の事故でしょう。今なお被災されている方は沢山おり、避難所生活も辛いことと思います。五稜会病院としては、北海道からの依頼で11月に精神科医と臨床心理士の岩手県山田町への派遣を行いました。今後も北海道の依頼に応じて出来るだけの援助をしていきたいと考えております。

さて、平成23年度の五稜会病院はスーパー救急（救急病棟）認可にむけて翻弄された年でした。当院では入院者数、新規入院者の割合、新規入院の90日以内退院率、非自発入院者率、年間の時間外受診者数はスーパー救急として全く問題ないのですが、当該医療圏の措置・応急入院者の4分の1以上をクリアすることが非常に難しい状況でした。北海道の8つの医療圏のうちの道央医療圏が範囲も広く、人口も260万人を数えるために分割案も浮上しておりましたが、分割するまでには至っていません。当院としては現時点で出来る範囲での精神科医療を展開していく他はありません。現在の急性期病棟もまだまだやるべきことがあります。当面はスーパー急性期病棟を目指して治療プログラムの充実を図りたいと思います。

平成23年10月には電子カルテ導入から1年が経ちました。検索が不十分、操作の手間が多い、クリニカルパス、DWH（データ管理）など、まだまだ改善の余地はあると思います。開発元の協議しながら、さらに良い環境設定をしていきたいと考えます。

平成23年度の事業としては4月には新グループホームである「おはな」が完成しました。併設の歩歩キッズもリニューアルされました。12月にはデイケア向かいにあった旧菜の花薬局を賃貸でリフォームしてリワーク・ヴィレッジ用のリワークセンターが完成しました。新しい環境の中で復職支援をさらに推し進めることとしました。12月にはさらに急性期病棟処置室の改修工事を行い、電気けいれん療法の環境を整えました。

病院機能は建物もさることながら治療プログラムの充実が必要です。ストレスケア・思春期病棟は五稜会病院の特徴でもあります。平成23年11月10日から3日間にわたり、ストレスケア病棟研究会を利用して院長以下5名で東京、横浜、千葉県の先進的な精神科病院の見学をしてきました。さらなる治療の充実を図るためには先達病院を良いところを取り入れて常に切磋琢磨しなければなりません。五稜会病院の1年間の軌跡を振り返り、より将来の発展を期待します。

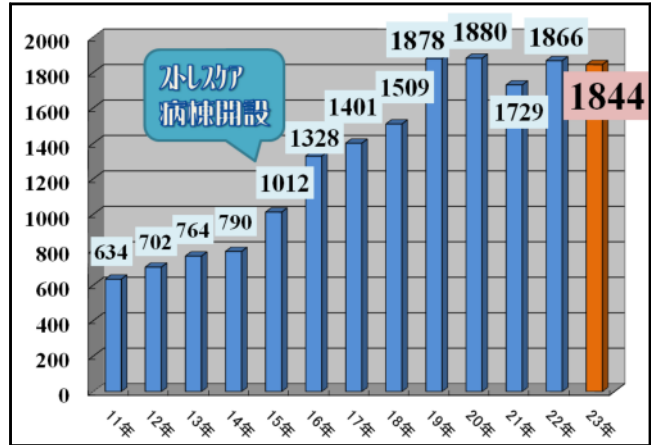
平成23年度はプロジェクトX+4年として、以下を行いました。

- 1 長期入院者の退院支援（新グループホームおはな運営開始）
- 2 リワークセンター開設（リワーク・ヴィレッジ 充実のため、病院向かいに新たな施設整備）
- 3 急性期病棟処置室改修工事、m-ECT施行環境を整えました。
- 4 電子カルテ稼働から年目、さらなる進化を図ります。
- 5 先達病院（東京・横浜・千葉）見学（ストレスケア病棟プログラム充実のための準備）
- 6 司法精神医学（起訴前本鑑定入院4件・医療観察法鑑定入院なし・簡易鑑定6件）
- 7 治験業務推進（新薬創出への貢献）

新患統計

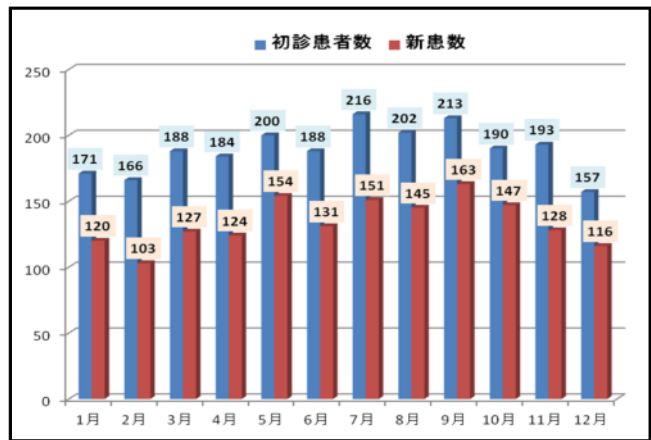
1 年度別新規患者数

平成23年度の新規患者数は1844人であった。年々新規患者数は増加し、右肩上がりであるが、ここ数年は1800人前後である。平成21年度のみ減少していた。札幌市内の精神科クリニックは増加傾向にあり、また他の精神科医療機関の診療の充実などもありこれ以上の外来者数は実際の診療体制からみて困難と思われる。外来者が多いので、ペー待合室での混雑緩和が今後の課題でもある。喫茶などを利用してもらっている。



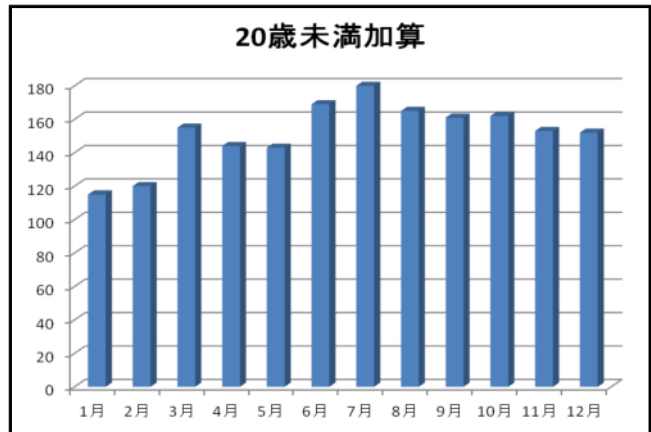
2 月別初診・新規患者数

初診患者が多いのは5月、7月、8月、9月である。例年12月、1月～3月は少ない傾向にある。札幌は今年度は12月から雪が多く余り外に出たがらないことがあったためであろうか。5月は連休の影響もあり、毎年少ないのが通例であったが、平成23年度は逆に多い傾向であった。9月、10月になると高校生が増える傾向にある。



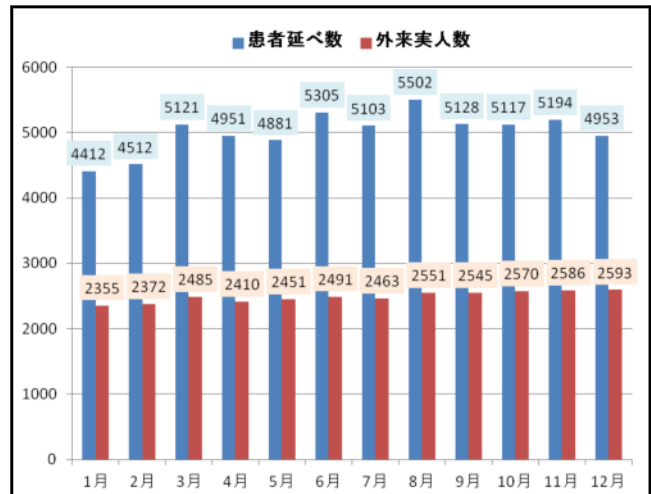
3 20歳未満加算数

20歳未満の受診者には診療報酬では加算算定ができる。平成20年4月の改訂で、加算要因が初診から6ヶ月が12ヶ月に延長になっている。平成23年度は1,819件であった。前年の平成22年の1,710件よりも増加した。ちなみに、平成16年度513件、平成17年度650件、平成18年度940件、平成19年度1,222件、平成20年は2,393件、平成21年度は2,076件である。札幌市内の他の病院でも思春期専門外来は増えている。



4 月別患者延べ数、外来実人数

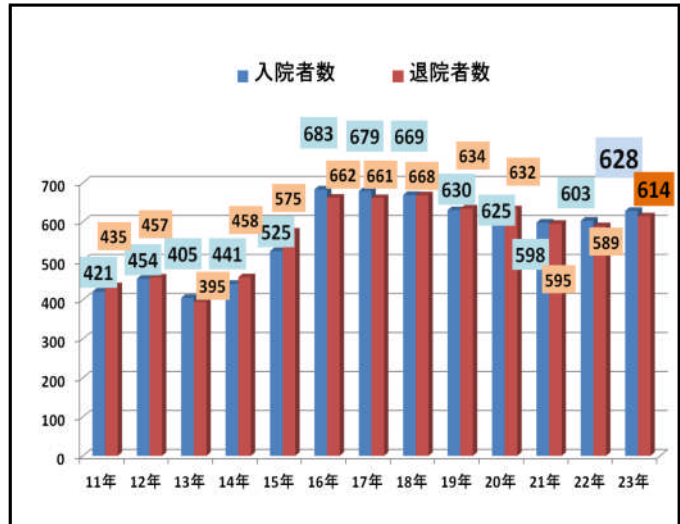
当院で診療している月別の患者延べ数を示す。平均して月に5,015人である。患者の月別の実人数は2,489人と平成22年の2,372人と比べて多くなっている。平成21年の2,317名、平成20年2,150名、平成19年1,862名と増加している。1日平均患者数、平均実数は160人である。多い日には200人を超える。医師が増員になっているが、診察室が不足することもある。近い将来、新棟を建築して使い勝手の良い外来を創りたいと考えている。



入院患者統計

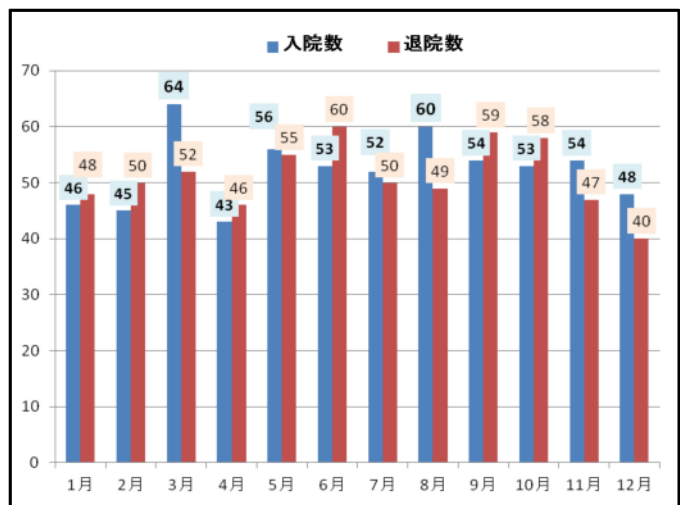
1 年度別入院者・退院者数

平成 11 年～ 14 年までは 400 人台で推移していた入院退院者数は、平成 15 年 10 月にストレス病棟がオープンした平成 15 年には 500 人を越え、平成 16 年度からは急性期病棟がオープンして受入れ体制が完備してから入院退院ともに 600 名を越えた。平成 21 年度は 598 人と平成 15 年以来の 600 人割れとなった。平成 23 年度は入院は 628 人と前年の 603 人を越えた。退院は 614 人と前年の 589 よりも増えた。スーパー救急を目指し 700 人前後の入院退院数の予想していたが、スーパー救急はしばらく保留である。



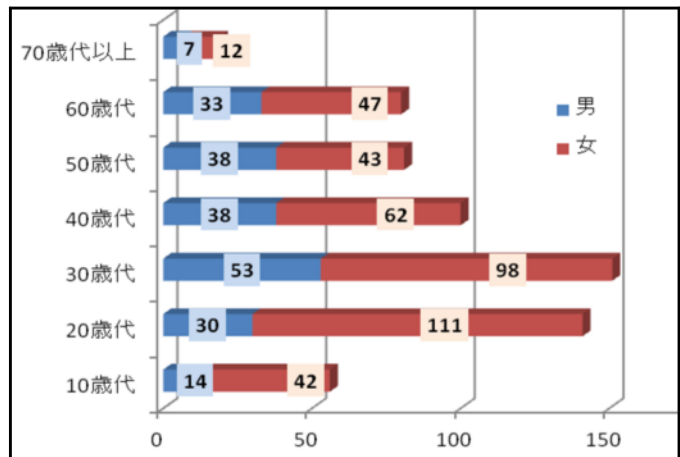
2 月別入院者・退院者数

月別の入院者で最も多いのは 3 月であった。次いで 8 月が多かった。例年よりも月が異なっていた。少ない月は、1 月、2 月、12 月で例年通りである。病床稼働率からのみ考えると、ある程度の病床利用があつて、しかも月の入院退院者数が同じであることが理想である。平成 22 年 4 月からの全体ミーティングでのベッドコントロールを行っているが、次第に運用も上手く行き始めている。患者さんのニーズと病院経営のバランスを上手く考慮しながらベッド調整を考える必要もある。



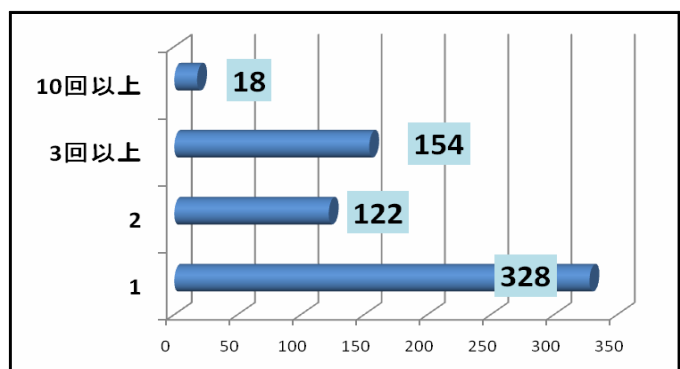
3 性別・年齢別入院者数

性別では前年同様に女性が多く 7 割弱である。これは他の病院でも同様のようである。入院者の年齢は 13 歳から 85 歳までで平均年齢は 39.2 歳と前年、前々年の 37.6 歳、37.7 歳よりも年齢が上がった。最も多いのは 30 歳代で、次いで 20 歳代である。20,30 歳代で半数弱を占めている。10 歳代は 8.9 % と約 1 割である。30 歳代までで 6 割、40 歳代までで 7 割、50 歳代までで 8 割を占め、70 歳以上は 19 人のみであった。



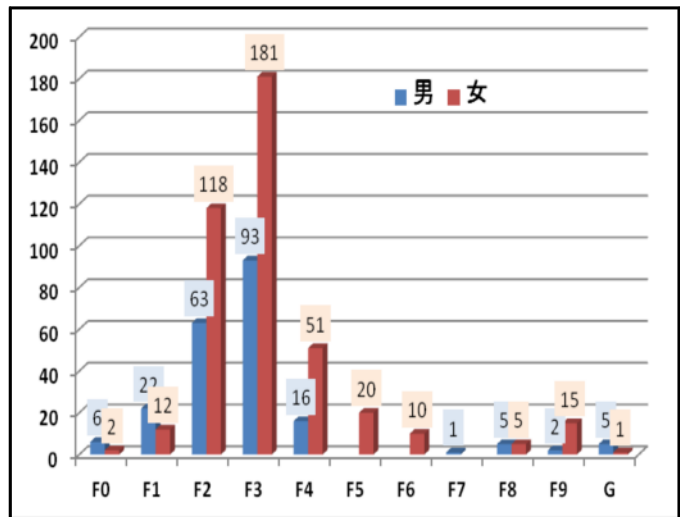
4 入院回数

初回入院が 350 人 (55.7 %) である。2 回目 が 128 人 (20.4%)、3 回目 が 47 人 (7.5%) であった。5 回以上の入院者は 71 人 (11.3%)。新規入院 (精神科入院歴が 3 ヶ月以内にない) は 575 人 (91.6%) で前年の 88.2% よりも高い。非新規が 53 人であり、殆どが新規入院で占められている。退院後の早期入院が抑えられている。



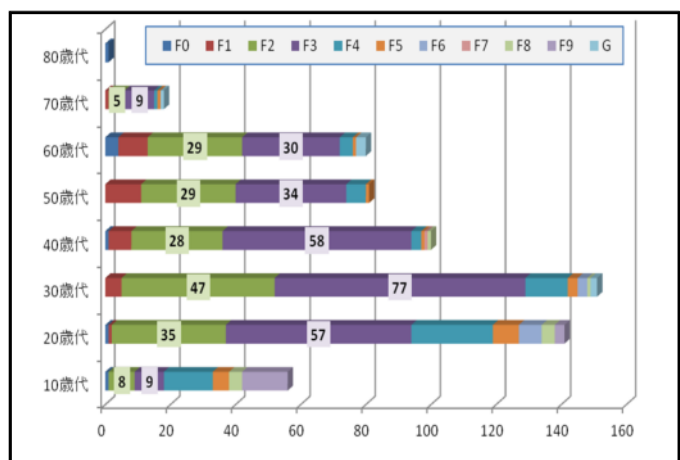
5 入院時診断

最も多いのは F3（気分障害）で 274 人（43.6%）と半数弱を占める。次いで F2（統合失調症圏）が 181 人（28.8%）と 3 割弱を占める。F4（神経症圏）は 67 人で 10% である。年々神経症圏が増えていたが、今年度は減少傾向にある。その代わりに気分障害が増えた。F6（パーソナリティ障害）は 10 人（1.6%）で昨年度よりもさらに減っている。これは診断基準で F3 に入れてしまうからか。他 F1（アルコール依存症）は 34 人と前年度の 22 人よりも増加した、摂食障害等の F5（生理的障害）は 20 人と減っている。



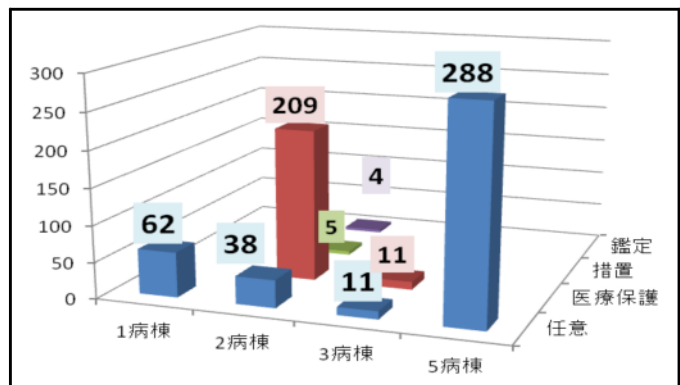
6 年代別診断分布

年代別の診断名の分布を示す。20 歳代から 60 歳代にわたって F3 の気分障害が多い。特に 20 代、30 代に多い。F2（統合失調症圏）20 歳代から 60 歳代まで幅広く分布する。F4（神経症圏）は 10 代、20 代、30 代に目立つ。30 歳代は F3、F2 の比率が高い。最近話題の 30 代の非定型うつ病患者が増加してののか。F6（パーソナリティ障害）は最近では減少傾向にある。F1（アルコール依存症）は 60 代に多い傾向にある。



7 入院形態・入院病棟

任意入院が 6 割強、医療保護入院が 3 割 5 分である。措置入院は緊急措置、措置含めて 5 人であった。スーパー救急絡みで札幌市内で措置入院者が顕著に増加しているようである。鑑定入院は裁判所嘱託鑑定を含めて 4 人であった。入院病棟は 5 病棟が 46%、2 病棟が 40% を占める。療養の 1 病棟でも 62 人、3 病棟は 22 人を受け入れた。



8 紹介してくれた病院・クリニック(敬称略)

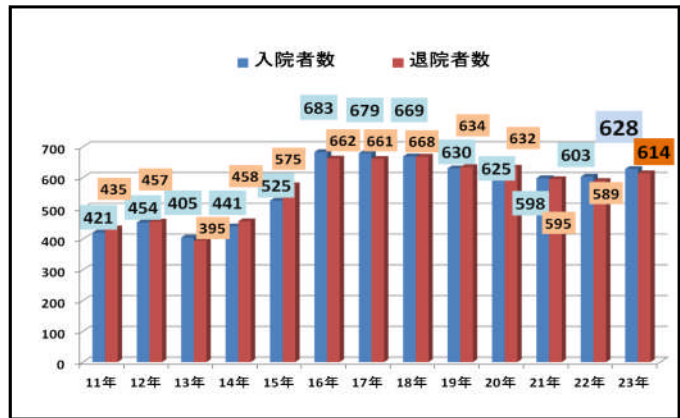
紹介元別の入院病棟を表に示す。628 人の入院者のうち 238 人（39.4%）が紹介患者である。病診連携を図っている M メンタルクリニック、S メンタルクリニックが多い。今年度は H 札幌メンタルクリニックからの紹介が増えた。次いで、Mi 心療内科、O 心療内科、M 神経クリニック、K メンタルクリニック、Sa メンタルクリニックが多い。総合病院では HT 病院と札幌医大病院が多い。

五稜会病院では今後とも病病・病診連携をはかるためにも紹介患者は可能な限り受入ることになっている。平成 21 年 10 月には、当院に在籍した医師が開業したことを契機に五稜会病院とクリニックの病診連携の契約書を交わし、様々なことでの繋がりを深めることにした。病診連携としては精神科クリニックの先生方に五稜会病院の当直をお願いしている。大変有り難いことである。ご紹介頂いた医療機関とは今後とも連携を深めたいと考えている。

退院患者統計

1 年度別退院患者数

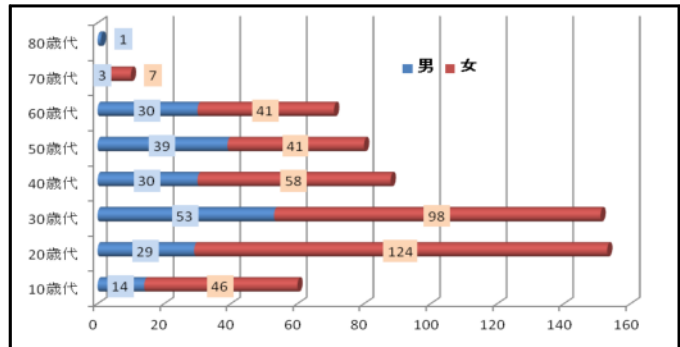
年度別の退院者数はここ数年は 600 人前後である。平成 23 年度は 614 人で前年の 600 人割れから 600 人台に回復した。退院者数は入院数に相関するので入院数が増えないと退院者数も増えない。退院の中味、例えば長期入院者の退院がどれくらいあるのかなどが重要な指標になるのかもしれない。退院後の再入院がないような訪問看護などのサポート体制も大事になってくる。



2 年齢・年代別・性別退院患者数

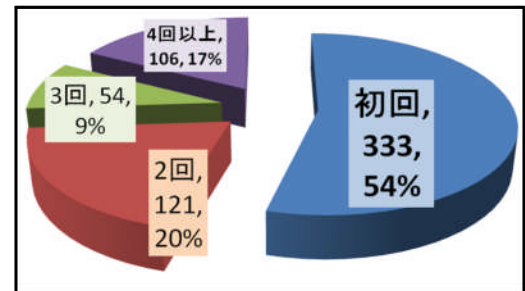
年齢は 13 歳～ 86 歳、平均年齢 38.5 歳であり、年齢層は例年通りである。年代別では 20 歳代～ 30 歳代が多い。10 歳代は 60 人(9.8%)と前年度同様に 1 割を占めている。70 歳以上は 11 人(1.8%)で少ない。

性別では女性が 7 割を占める。年代別では 10 歳、20 歳代での女性の比率が高い。



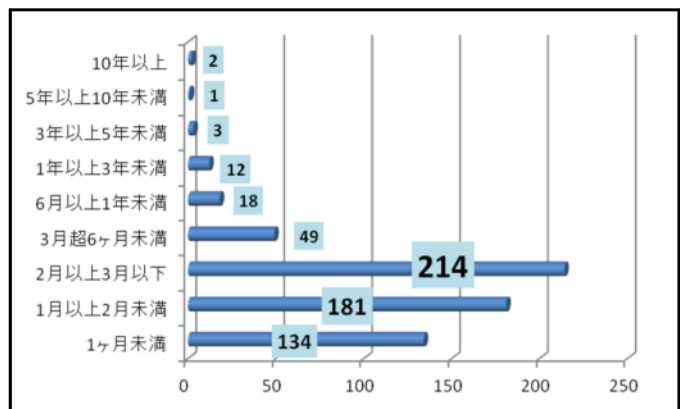
3 入院回数

1～21 回、平均入院回数 2.3 回である。初回入院者は 333 人で 54.2 %である。再入院のうち、2 回が 121 人 (19.7%)、3 回が 54 人 (8.8 %)であった。4 回以上は 106 人(17.3%)である。10 回以上の入院者は 14 人(2.3%)であった。



4 入院期間

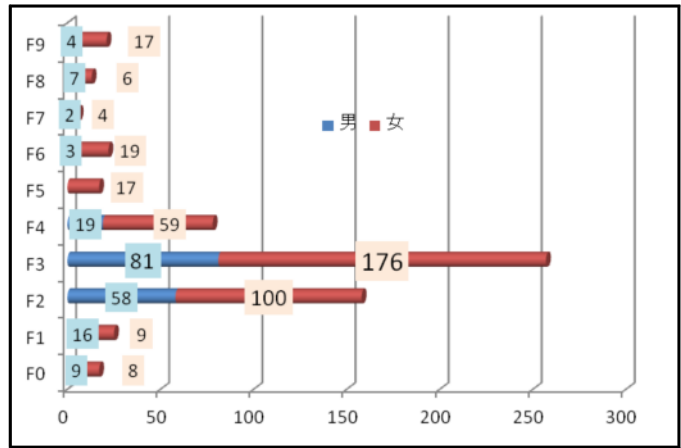
1～4, 906 日、平均 98.6 日である。期間別では 1ヶ月未満が 134 人 (21.8%)、1ヶ月以上2ヶ月未満が 181 人 (29.5%)、2ヶ月以上3ヶ月未満が 214 人 (34.9%)であった。3ヶ月超6ヶ月未満は 8.0%、6ヶ月以上1年未満が 2.9%であり、3ヶ月超の退院者が昨年度よりも減っている。1年以上は 18 人、3年以上の入院者は 6 人、10 年以上は 2 人であった。表は 3 年以上の入院者である。退院援助が奏功している。



年代	性	入院期間	回数	F	入棟	退棟	入院形態	退院形態	退院状態	外来	デイケア	退院先	全体の満足度	CSQ 8J	家族の満足度
30歳代	男	1234	2	F2	2病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	有	無	自宅	3	23	3
60歳代	男	1097	5	F2	1病棟	1病棟	任意	任意	軽快	有	有	グループホーム	3	25	
50歳代	女	4906	5	F2	3病棟	3病棟	任意	任意	軽快	有	有	グループホーム	3	25	
50歳代	男	2839	6	F2	3病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	有	有	グループホーム			
30歳代	女	3721	3	F2	2病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	有	有	グループホーム	2	15	4
30歳代	女	1723	3	F2	2病棟	3病棟	医療保護	任意	軽快	有	有	自宅			3

5 退院時診断

F3（気分障害）が最多で257人（41.9%）である。これは前年度の36.6%よりも多くなっている。次いでF2（統合失調症圏）が158人（25.7%）で前年度よりも少ない。F4（神経症圏）は78人（12.7%）であった。F1（アルコール依存症等）は25人（4.1%）と同様であった。F6（パーソナリティ障害）22人（3.6%）と少ない。F5（摂食障害等）は17人（2.8%）と減少傾向である。F0（認知症）は17人（2.8%）であった。



6 退院者の入院時および退院時の入院形態

退院時に医療保護入院は108人（17.6%）である。そのうち5人は任意入院で入院した患者であった。これは途中で病状悪化のために医療保護入院に変更になったものである。入院時の入院形態は任意入院が62.4%を占め、36.2%が医療保護入院である。措置入院は4人、起訴前鑑定入院が5人であった。

		入院時の入院形態				総計
		任意	医療保護	措置入院	鑑定入院	
退院形態	任意	378	121	2		501
	医療保護	5	101	2		108
	鑑定入院				5	5
	総計	383	222	4	5	614

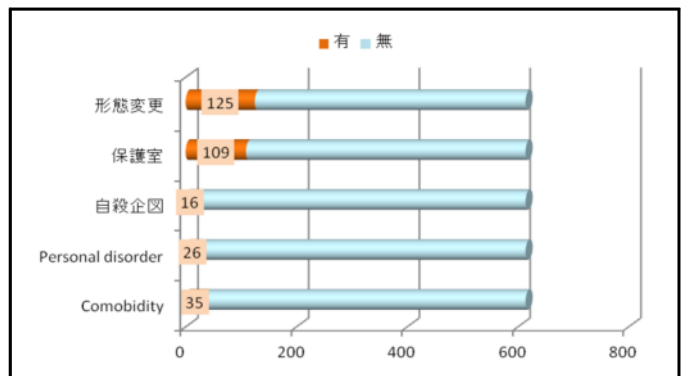
7 退院および入院した病棟

264人（50.2%）と半数は5病棟からの退院である。5病棟からの退院者の37人は2病棟入院後に5病棟に転棟して退院した。2病棟からの退院は118人（19.2%）前年よりも少ない。1病棟からも142人（23.1%）と2割以上が退院している。1病棟からの退院者は半数の76人が2病棟入院後に1病棟に転棟して退院している。3病棟からは46人（7.5%）が退院した。退院支援を積極的に行っている証左である。

		入院した病棟				総計
		1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	
退院時の病棟	1病棟	52	76	2	12	142
	2病棟		116		2	118
	3病棟	3	20	17	6	46
	5病棟	6	37	1	264	308
	総計	61	249	20	284	614

8 自殺企図、保護室管理の有無等

入院形態が変更になっているのは125人（20.4%）である。多くは医療保護入院から任意入院への切替である。保護室入室者は109人（17.8%）であった。これが多いのかわか議論があろう。リストカット、大量服薬の自傷行為・自殺行為は16人（2.6%）、内科合併症（comorbidity）を有する例が35人（5.7%）を占めていた。Personality disorderの併存26人（4.2%）であった。



最近の傾向として糖尿病や肝硬変を合併している患者さんが特に多いような気がします。食生活の欧米化などは昔から言われていることですが、医療費の高騰も進んでいる中で自己の身体管理も含めて国民全体で考えていく必要があるかと思ひます。

9 転帰

軽快退院が 90 %以上を占める。治療中断例が 11 人 (1.8 %)、不変が 26 人(4.2%)であった。退院後に外来に繋がるのは 458 人と 3/4 を占める。このうちデイケアにつながるのは 90 人 (17.4%)と前年と同様であった。最近はコロナだけではなく、女性に特化したミニグループへのデイケア通所者が増加している。他の医療機関への転入院は 12 人 (2.0 %)、外来は 149 人 (24.3%) である。

退院状態	外来				
	有	%	無	総計	%
軽快	458	74.6%	118	576	93.8%
治療中断	3	0.5%	8	11	1.8%
不変	17	2.8%	9	26	4.2%
死亡		0.0%	1	1	0.2%
総計	478	77.9%	136	614	100.0%

転院	外来				
	有	%	無	総計	%
外来	35	5.7%	114	149	24.3%
入院	1	0.2%	11	12	2.0%
入所	2	0.3%		2	0.3%
無	440	71.7%	11	451	73.5%
総計	478	77.9%	136	614	100.0%

デイケア	外来				
	有	%	無	総計	%
有	90	14.7%		90	14.7%
無	388	%	136	524	85.3%
総計	478	77.9%	136	614	100.0%

10 転医先

病診連携が重要であり、基本的には紹介して頂いた病院・クリニックに診療情報提供書を作成して再び受診してもらうことにしている。日頃、お世話になっていることに感謝申し上げます。転入院した患者の一覧を示す。

年代	性	入院期間	F	入棟	退棟	退院形態	退院状態	外来	病院名	転院理由
20歳代	女	12	F0	2病棟	2病棟	医療保護	不変	無	中村記念	脳炎
50歳代	男	30	F3	2病棟	2病棟	任意	軽快	無	札幌センチュリー病院	内科身体管理
60歳代	男	71	F2	3病棟	3病棟	医療保護	軽快	無	札幌東徳洲会	内科身体管理
60歳代	男	5	F2	2病棟	2病棟	医療保護	治療中断	無	勤医協中央	内科身体管理
50歳代	男	2	F1	2病棟	2病棟	医療保護	治療中断	無	勤医協中央	内科身体管理
50歳代	男	161	F0	2病棟	1病棟	任意	治療中断	無	札幌医大	精神状態管理
70歳代	男	89	F1	2病棟	2病棟	医療保護	軽快	無	札幌東徳洲会	身体管理
40歳代	女	213	F3	1病棟	1病棟	任意	軽快	無	医療センター	身体管理、神経内科
60歳代	女	2	F3	5病棟	5病棟	任意	治療中断	無	市立札幌病院	自殺企図、救命
20歳代	女	110	F3	1病棟	1病棟	任意	軽快	有	麻生耳鼻科	耳鼻科、発熱
50歳代	男	17	F0	2病棟	2病棟	医療保護	軽快	無	札幌徳洲会	内科身体管理
60歳代	女	158	F2	1病棟	3病棟	任意	軽快	無	手稲病院	精神科治療継続

病院名は敬称を略します。この場をお借りして感謝申し上げます。

退院時満足度調査

平成 23 年度

1 対象

平成 23 年 1 月～ 12 月までの退院者 614 人中、退院時に満足度調査の回答が得られた 464 人(75.6%)を対象に分析を行った。回収率は前年度と同様である。なかなか 80 %を超えない。回収率は入院治療の満足度の高さの証明でもあり得るのでさらなる回収率向上を図りたい。1 病棟、3 病棟の療養病棟で高い数字である。2 病棟、5 病棟の回収率が低いのは何故であろうか。特に 2 病棟での回収率が低い。満足度調査の必要性を理解し、信頼性確保のためには回収率を上げる必要がある。なお、調査対象からは認知症、脳器質性疾患、緊急の転院、入院 2 日以内を除く。

満足度調査				
退院病棟	有	無	総計	%
1病棟	114	28	142	80.3%
2病棟	75	43	118	63.6%
3病棟	42	4	46	91.3%
5病棟	233	75	308	75.6%
総計	464	150	614	75.6%

対象者の基礎データ

464 人

年齢 13 歳～ 79 歳 平均 38.8 歳

性別 男 = 146(31.5 %)

女 = 318(68.5 %)

入院期間 2 ～ 4,906 日 平均 105 日

入院回数 1 ～ 21 回 平均 2.4 回

初回 = 244 (52.6%)、2 回目 = 93 (20.0%)、

3 回以上 = 127(27.4%)

診断別・入院形態

F3 (気分障害圏) が最多の 45 %を占める。F2 (統合失調症圏) は 3 割弱、F4 (神経症圏) の 1 割の順である。入院時の入院形態は 6 割が任意入院で医療保護入院は 4 割弱である。措置入院者が 3 人であるが、退院時には任意入院または医療保護入院に変更になっている。

F分類	男	女	総計	%
F0	6	4	10	2.2%
F1	9	7	16	3.4%
F2	46	77	123	26.5%
F3	62	149	211	45.5%
F4	12	38	50	10.8%
F5		11	11	2.4%
F6	1	12	13	2.8%
F7	1	4	5	1.1%
F8	5	3	8	1.7%
F9	4	13	17	3.7%
総計	146	318	464	100.0%

2 方法

1. 入院治療についての全体的満足度

CSQ-8J (Client Satisfaction Questionnaire)

2. 入院に際する説明、入院中の治療に対する説明

3. 医師・看護婦などのスタッフに対する評価

4. 入院生活の快適さ

5. 家族の評価 等の調査を行っている。

入院形態	退院形態			
	任意	医療保護	総計	%
任意	289	3	292	62.9%
医療保護	95	74	169	36.4%
緊急措置	1	1	2	0.4%
措置入院		1	1	0.2%
総計	385	79	464	100.0%

3 結果

3-1 全体的満足度、スタッフ評価、環境等

次ページ表の数字の%は「良い」「大変良い」の両者を合計したものを表す。「効果的な対処」が最も高く、92.4 %が満足したと回答した。これは前年度と同様である。患者さんが何が困っているのかを把握して、その対処法についてのプログラムが奏功しているものと判断している。「全体的な満足度」は 89.5%であった。今までは 85 %前後であったが、8 割を切ってしまった。8 割を越えているのは「望んだ治療か」「推薦するか」である。最も低いのは「必要とした治療か」で 65.3%であった。数値が低いのは質問の意図がうまく伝わっていないことも原因かもしれない。精神科医療への期待度が高いとどうしても不満と答える方が増えてしまう。入院時の説明が重要と思われるが、9 割近くの方が満足していると回答している。家族の「全体的な満足度」は 93.9 %と高い値になっている。患者自身だけでなく家族の満足度を得ることも精神科では必要である。

1	2	3	4
よくない 全くない 絶対ない	まあまあ そうでもない しない	よい だいたい する	とてもよい 大いによい 絶対する

CSQ-8J	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%	(空白)	総計
1治療の質	11	115	190	122	312	71.2%	26	464
2望んだ治療か	9	67	252	108	360	82.6%	28	464
3必要としたか	12	138	205	77	282	65.3%	32	464
4推薦するか	14	70	280	66	346	80.5%	34	464
5時間をかけた援助	17	86	225	108	333	76.4%	28	464
6効果的な対処	3	30	249	150	399	92.4%	32	464
7全体の満足	9	80	244	101	345	79.5%	30	464
8治療に戻るか	23	85	249	63	312	74.3%	44	464
スタッフ評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%	(空白)	総計
9事務員の応対	11	110	199	116	315	72.2%	28	464
10看護婦	7	72	170	185	355	81.8%	30	464
11医師	19	87	173	150	323	75.3%	35	464
12他のスタッフ	8	50	194	180	374	86.6%	32	464
説明・環境等	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%	(空白)	総計
13入院の説明	8	42	194	174	368	88.0%	46	464
14入院中の説明	7	59	186	157	343	83.9%	55	464
15入院生活の快適さ	41	151	137	85	222	53.6%	50	464
16a病室の広さ	21	91	249	57	306	73.2%	46	464
16b廊下幅	36	72	243	64	307	74.0%	49	464
16cテイルーム	24	84	230	75	305	73.8%	51	464
16d作業療法室	58	106	212	31	243	59.7%	57	464
16e壁の色	17	92	257	45	302	73.5%	53	464
16f緑の多さ	21	133	181	74	255	62.3%	55	464
16g臭い	31	93	214	72	286	69.8%	54	464
16h清潔度	11	82	213	105	318	77.4%	53	464
17医療費	28	108	209	16	225	62.3%	103	464
家族の評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%	(空白)	総計
21入院説明	1	13	103	211	314	95.7%	136	464
22入院中の説明	10	38	142	122	264	84.6%	152	464
23事務員	3	60	177	87	264	80.7%	137	464
24看護婦	2	36	154	136	290	88.4%	136	464
25医師	6	39	149	132	281	86.2%	138	464
26他のスタッフ	0	30	164	119	283	90.4%	151	464
27医療費	10	82	207	10	217	70.2%	155	464
28全体の満足	3	17	173	136	309	93.9%	135	464

職種別では医師への満足度が 75.3 %、看護師が 81.8 %であった。いつも高い満足度を誇る他のスタッフ（PSW・心理士・作業療法士・薬剤師）への満足度が 86.6 %であった。事務員は 72.2 %であるが、医療費のことなどでの不満が多いのかしれない。

医師別の評価も行っている。良くない評価もあるが、全ての患者さんに良くは評価されることはないの、主治医は落ち込まないで欲しい。時には厳しい指導も必要と考えています。

3-2 「全体的満足度」の「とても不満」の回答者

「全体的満足度」で「とても不満」と回答したのは9人である。これは前年度の11人よりも少ない。性別ではほぼ同数である。診断は統合失調症、気分障害が3人ずつである。F1のアルコール依存症が2人と多いようである。入院した病棟は2病棟が4人、5病棟が3人であった。

入院形態では任意入院が5人で医療保護入院が4人である。「とても不満」と回答していても8人は当院に通院している。任意入院者が多いのは、入院治療の期待度の表れであろうか。本人が不満と答えていても家族は4人と半数が「良い以上」の満足度を示している。また、家族がとても不満と回答したのは3人であるが、外来は当院で治療を行っている。著しく不満であっても当院での治療を継続しているので、診療の中で満足度を高められるように努力したい。このためにも、率直な意見を伝えて頂ければ今後のさらなる医療サービス向上に繋がるものと考えております。本人の満足度は「良い」が2人であった。

	年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	入院形態	退院形態	退院状態	外来	デイケア	転院	家族の満足度
とても不満回答者	30歳代	男	10	5	F2	1病棟	1病棟	任意	任意	軽快	有	無	無	
	40歳代	男	36	1	F1	2病棟	1病棟	任意	任意	軽快	有	無	無	2
	50歳代	女	80	1	F1	2病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	有	無	無	4
	50歳代	男	29	1	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	治療中断	無	無	外来	
	60歳代	女	54	21	F2	3病棟	3病棟	医療保護	任意	軽快	有	有	無	3
	60歳代	男	208	1	F2	2病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	有	無	無	
	30歳代	女	52	3	F3	5病棟	1病棟	任意	任意	軽快	有	有	無	
	20歳代	女	40	2	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	不変	有	無	無	3
	20歳代	女	37	1	F6	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	軽快	有	有	無	4
家族がとても不満と回答した退院者														
	年代	性	入院期間	回数	F	入棟	退棟	入院形態	退院形態	退院状態	外来	デイケア	転院	本人の満足度
	60歳代	男	89	1	F3	2病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	有	無	無	2
	30歳代	女	90	1	F1	2病棟	5病棟	医療保護	任意	軽快	有	無	無	3
	20歳代	女	58	2	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	軽快	有	無	無	3

満足度調査の目的

1 顧客の声を正確に把握する

患者に直接聞くことで本当の満足度調査ができ、ニーズにあった調査票を作成することにより定量データもとることができる。

2 サービスレベル向上策の実施

患者の声の中で最も評価された点、課題だと思われる点を優先順位を緊急度、重要度を加味して整理する。その上で「すぐできる対策」「中長期にわたって実施すること」を決めて実施する。

3 新たなニーズ、サービスの発掘

患者の声から新たなニーズを発見することも可能である。日々のサポートに追われ気がつかなかったニーズやサービスの芽を発見できる。

「満足度調査」は患者さんから「どのような評価を受けているか」という現状把握をし、患者さんの視点に立って、院内改善活動に取り組むための問題点および課題」を明確化し、改善点を浮き彫りにすることが出来ます。

平成 16 年度 4 月から札幌市の精神科救急医療システムが変更になり、精神科救急情報センターが設置されることになった。五稜会病院はこのシステムに参画し、札幌市の精神科救急医療に寄与している。また、平成 19 年 2 月には中島公博が札幌市医師会医学会において「民間の単科精神科病院における精神科救急および時間外診療」の演題で発表を行った。平成 23 年 2 月には同じく同医学会において、中島公博が「民間の単科精神科病院における急性期医療の現状」の演題で発表した。

「札幌市精神科救急情報センター」

札幌市民のための情報センターとしての位置付けである。情報センターは、病院の紹介及び振分け機能と相談員 2 名（精神科病院勤務経験者の看護師・精神保健福祉士等）による相談機能を有し、患者本人及び家族・病院・関係機関との調整を図る。これまでの夜間急病センター窓口を中心とした体制から、情報センター中心の体制に変更となっている。情報センターの電話番号の周知、合併症患者及び自殺未遂者への対応について、これまでと同様に連携を図る。

平成23年度の救急当番病院での実績

概ね、月 1 回の救急当番病院となる。平成 23 年度は 13 回の救急当番を実施した。土曜日が 1 回、日曜日が 3 回、他は平日である。救急当番で特にトラブルになったケースはなかった。当直医は交代で行っている。非指定医が当番の場合には応援の指定医を定めている。緊急事態発生時は応援可能な医師に連絡をする。受入患者対応の基本的方針はあくまでも救急当番病院としての役割を担うことであるので、かかりつけの病院・クリニックがある場合には後日、当該病院に受診してもらうことを勧める。入院が必要になった場合にも、翌日改めて治療契約の見直しを図ることが必要である。

平成23年度はスパー救急に明け暮れた年であった。札幌市と北海道が協議を繰り返したが、道央医療圏は現状のままであった。札幌市では平成24年度から応急入院の要件を緩和することになり、他の病院では措置・応急入院者の増加があった。札幌市内ではスパー救急算定した病院もあるが、当院としては状況を見据えながら、診療内容の充実を図ってスパー救急に準じた医療を展開していくつもりである。

平成23年2月20日
第36回札幌市医師会医学会
www.goryokai.com

民間の単科精神科病院における急性期医療の現状

五稜会病院

中島公博、木川昌康、今井奈保美、川本郁朗、相方謙一郎
阿部多樹夫、富永英俊、鈴木健史、坂岡ウメ子、千文雅徳

はじめに

- 「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では急性期、重度療養等の機能分化の促進や精神科救急の整備がうたわれている。
- 平成22年4月の診療報酬改定では、急性期治療病棟入院料や精神科救急入院料の点数が引き上げられている。
- 五稜会病院(193床、以下当院)における急性期医療の現状について検討したので報告する。

対象と方法

- 平成20年度から22年度までの入院台帳から当院に入院した患者の転帰、急性期治療の課題等について検討した。
- 当院は急性期病棟(38床)の他にストレスケア病棟(48床)を有する。この病棟では入院期間を原則3ヶ月と決め、新規入院者が殆どで入院期間でみると急性期治療を行っている。

www.goryokai.com

救急当番(輪番制)と時間外受診

平成20年～22年度
輪番制の救急当番での実績

平成20年	回数	電話	外来者	入院
平日	10	2	7	2
土曜日	2	0	5	2
日曜日	2	2	4	0
計	14	4	16	4

平成21年

回数	電話	外来者	入院	
平日	8	5	9	3
土曜日	2	3	2	1
日曜日	3	6	11	1
計	13	14	22	5

平成22年

回数	電話	外来者	入院	
平日	9	6	8	0
土曜日	2	2	4	2
日曜日	2	2	4	1
計	13	10	16	3

平成22年度
時間外電話相談・時間外受診・救急車

平成22年度	電話相談	時間外受診	救急車
1月	121	12	4
2月	104	15	2
3月	95	7	2
4月	100	11	7
5月	113	12	4
6月	85	10	10
7月	170	27	15
8月	149	21	10
9月	116	12	10
10月	146	14	6
11月	178	15	3
12月	131	13	5
計	1508	169	78

- 精神科救急(輪番制)は月1回程度、外来者は1人強、入院は年に3-5人である。
- 時間外の電話相談が1日数件ある。時間外受診者は年に170名、救急車来院80件。

www.goryokai.com

考察

- 精神科急性期医療の定義は何か。救急との違いは。
 - 入院期間、新規入院、時間外、入院形態だけで判断
- 開放病棟でも閉鎖病棟以上の労力がある。
 - ストレスケア病棟での患者対応、開放病棟での無断離院のリスク
- 急性期医療では病状によって病棟間移動が多くなり、病状変化や手続き上の煩雑さがある。
- 救急病棟と急性期病棟での診療報酬上の格差
 - 治療内容にそれ程の違いがあるのか。

まとめ

- 当院での精神科急性期医療の現状を報告した。
- 人的な労力に合致した診療報酬の見直しが必要。

www.goryokai.com

当院の急性期病棟の入院、退院数および時間外受診者数

当院の2病棟(急性期病棟)はスーパー救急病棟に準じた運用をしています。平成22年と平成23年のデータを示します。入院数は約250人、他の病棟からの転棟者は年に30人弱。新規入院は230-240人で新規は9割です。医療保護入院、措置入院の任意入院以外の非自発入院は8割、90日以内の退院者は8割となっています。時間外受診は平成23年度は280人でした。患者さんには日頃の精神症状の安定化を図り、なるべく時間外受診はしないように心理教育を行っています。どうしても心配な時には当院では電話によるレポート体制をとっており対応しています。

札幌市では輪番制をとっていますので、新規での時間外受診は基本的には行っておりません。

但し、他の病院からの依頼でどうしても入院が必要な場合には空床とスタッフの体制が整っていれば受け入れることもあり得ます。

入院月日	入院者	2病棟	転棟者	新規入院	%	非自発入院	%	90日以内	%	時間外
平成22年1月	38	14	3	13	76.5%	10	71.4%	10	76.9%	12
平成22年2月	44	18	2	17	85.0%	14	77.8%	9	52.9%	15
平成22年3月	52	19	2	19	90.5%	17	89.5%	15	78.9%	9
平成22年4月	46	21	2	20	87.0%	17	81.0%	18	90.0%	11
平成22年5月	50	28	2	27	90.0%	26	92.9%	22	81.5%	12
平成22年6月	63	26	3	24	82.8%	20	76.9%	21	87.5%	10
平成22年7月	60	23	3	21	80.8%	16	69.6%	15	71.4%	27
平成22年8月	48	20	1	17	81.0%	17	85.0%	11	64.7%	21
平成22年9月	62	29	2	27	87.1%	25	86.2%	22	81.5%	12
平成22年10月	49	18	2	15	75.0%	15	83.3%	10	66.7%	14
平成22年11月	52	21	1	17	77.3%	17	81.0%	12	70.6%	15
平成22年12月	40	15	3	15	83.3%	14	93.3%	15	100.0%	9
計	604	252	26	232	90.6%	208	82.3%	180	76.9%	167

入院月日	入院者	2病棟	転棟者	新規	%	非自発	%	90日以内	%	時間外
平成23年1月	46	16	1	14	82.4%	12	75.0%	12	85.7%	16
平成23年2月	45	19	5	17	70.8%	15	78.9%	16	94.1%	11
平成23年3月	64	28	5	24	72.7%	22	78.6%	23	95.8%	26
平成23年4月	43	16	3	16	84.2%	13	81.3%	13	81.3%	38
平成23年5月	56	27	0	26	96.3%	26	96.3%	23	88.5%	18
平成23年6月	53	23	0	22	95.7%	20	87.0%	22	100.0%	16
平成23年7月	52	21	1	19	86.4%	18	85.7%	16	84.2%	39
平成23年8月	60	21	2	21	91.3%	16	76.2%	16	76.2%	21
平成23年9月	54	21	3	19	79.2%	18	85.7%	13	68.4%	20
平成23年10月	53	27	2	26	89.7%	22	81.5%	14	53.8%	23
平成23年11月	54	18	1	18	94.7%	16	88.9%	15	83.3%	27
平成23年12月	48	19	4	18	78.3%	14	73.7%	16	88.9%	25
計	628	256	27	240	92.9%	212	89.9%	199	83.4%	280